

## 常設展の展示物を調べてみよう

( ) 中学校 2年\_\_組 氏名\_\_\_\_\_

- 1 今から2万年前、日本列島と大陸とは陸続きになっており、さまざまな動物が日本列島に渡ってきました。

中国大陸やシベリアから渡ってきた野生動物を、それぞれ3つ書きなさい。

- ① 中国大陸 ( )  
 ② シベリア ( )

- 2 次の文の ( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) 貝塚は縄文人のゴミ捨て場といわれてきましたが、そこは生きものの魂を送り出し再生を願う場所でした。安城市堀内町にある縄文時代晩期(2700年前)の( )貝塚からは動物の骨や魚の骨、また、海で採取した( )やアサリの貝殻、川で採取したシジミやカワニナなどの貝殻が見つっています。

- (2) 弥生時代後期(有名な邪馬台国、女王卑弥呼のころ)、人の顔が描かれた土器が安城市東町の亀塚遺跡で発見されました。

- ① この土器を何と言いますか ( )  
 ② 中国の歴史書で、倭の国(日本)のことを書いた( )には、「女王国」(女王卑弥呼の国)のことや、「男子無大小 皆鯨面文身」などが書かれています。この\_\_文は「男性は大人も子供も、皆鯨面げいめん(入れ墨を入れた顔)文身ぶんしん(入れ墨を入れた体)をしている」という意味です。



国指定重要文化財

- (3) 弥生時代中期以降は鹿乗川流域かのりの遺跡の数も増え、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて( )遺跡(古井町)、彼岸田遺跡・中狭間遺跡(桜井町)、下懸遺跡しもかけ(小川町)、惣作遺跡そうさく(寺領町)などから多数の土器や木製品が出土していることから、西三河を代表する集落に発展していったと考えられます。

- (4) 安城市桜井町とその周辺には前方後円墳・前方後方墳を中心に22基の古墳が分布し、桜井古墳群と呼ばれています。矢作川流域で( )番目に大きい二子古墳は、( )の形をしており、全長68.2mあります。

3 右の像の人は、日本に仏教を取り入れ、法隆寺を建て仏教を広めた人です。この像は彼が16歳の時に、病気の父用明天皇の看病をした時の様子を表したものです。当時の看病は祈禱きとうに近いものであったらしく、そのために仏事の服装をしています。



・右の像の人は誰でしょう。( )

4 松平(徳川)家康は、1560年桶狭間合戦の後、岡崎城にもどり、三河国の一国支配をめざしました。そのため大きな勢力をもっていた三河三カ寺を中心とする教団と対立し、ついに1563年一揆が起きました。家康の家臣には少なからぬ一向宗(真宗)門徒がおり、戦いは6か月ほど続きましたが、一揆側が家康に降伏し和議が成立することになりました。

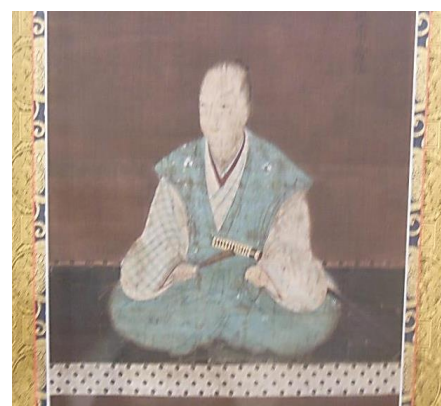
(1) この一揆を何と言いますか ( )

(2) 三河三カ寺は、岡崎の上宮寺、勝鬘寺しょうまんと安城の野寺の( )です。

### 5 安城松平氏の発展

安城城(「安城市史」による)は、室町時代の半ばころに築かれた平山城ひらやまじろ(平野の中の小高いところなど自然の地形を巧みに利用して建てられた城)でした。当時の城は、周囲に堀や土塁どるい(敵や動物などの侵入を防ぐために築かれた土製の堤防状の壁)をめぐらし、その中に城主の館や武器庫、食糧庫、物見櫓ものみやぐら(見張り台)などを建てた、とりでのようなものでした。高い石垣や天守閣がつくられるようになったのは、戦国時代末期からです。

安城城については、諸説ありますが、文明8年(1476)、松平氏3代目の信光が奇策を用いて奪って以来、その子の( )、長親、信忠、( :家康の祖父)までの4代の間に、三河一帯に勢力を伸ばし、各地に松平一族が分立していきました。



そして、清康は、岡崎城を奪い、本拠地を安城城から

( )城へ移しました。

左写真：諸国古城之図(広島藩浅野家 江戸時代)

右写真：家康の祖父である松平清康像

6 石川丈山は、三河時代から徳川家に仕えた石川家に生まれました。初めは武士としての道を歩んでいましたが、大坂夏の陣で手がらをたてたのを最後に徳川家へ仕えるのをやめ、以前からあこがれていた学問の道に進みました。しかし、母の孝養（面倒をみる）のため広島の浅野家に仕えました。母親が亡くなると、京都一乗寺の（ ）で隠棲生活を送りました。また、ここの庭は丈山自らが造ったもので有名です。安城市和泉町には、丈山ゆかりの施設、「丈山文庫」や「丈山苑」があります。



石川丈山の肖像画

7 碧海台地は、やせ地のうえ雨量も少なく、水の便も悪い土地でした。安城市和泉町の酒造業を営む（ ）は、碧海台地に矢作川の水を引いて土地を開く計画を立て、数年かけ測量を行い、1827年（文政10年）江戸幕府に「新開願書」を出しました。しかし、領主たちは開墾地が幕府領になること、また、農民も生活にかかわる入会地が減ることや低地における排水のことなどで反対しました。初めの計画は行きづまり、借財を残したまま亡くなりました。



この計画を引き継いだのは、碧海郡大浜村（碧南市）生まれの（ ）でした。明治政府や県に対して、用水路を開く願いを出しました。

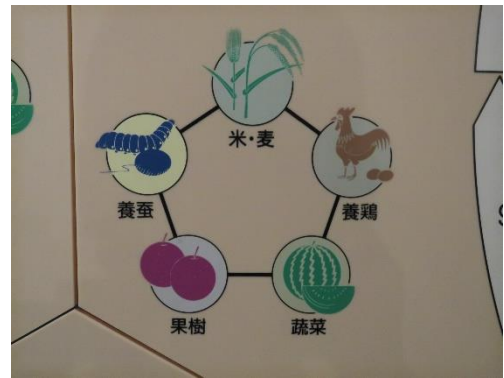
いっぽう（ ）は、栗寺村（豊田市）はじめ7か村の排水路を開く願いを出しました。県はこの二つの計画をあわせて、お互いを協力させて用水路を開く計画を進めました。1879年工事が始まり、1880年に工事が完成したのち、この用水は（ ）と名付けられました。

8 1901年県下最初の農学校の愛知県立農林学校が開校しました。その初代校長の（ ）は、すぐれた教育者であり、農政者としても著名でした。彼の「農業は国の基本である」という考えを、一般社会にも広めようとして、農民・農村教育に力を尽くしました。そして、全国の講演回数は1万5000回近くにおよびました。



9 明治用水によって農地が広がり、二毛作ができるようになり、稲の裏作として麦やレンゲなどが作られました。

米や麦以外には、（ ）・養蚕・<sup>そさい</sup>蔬菜（野菜）作・果樹栽培などが行われ、農業経営の（ ）が図られました。これらの農産物は産業組合を通して共同販売され、農家に現金収入がもたらされ、農業経営は安定しました。



そして、1920年～1930年にかけて、碧海郡地方は（「 ）と呼ばれるようになりました。それは、農業経営の多角化や産業組合の発達したようすが日本農業の模範とされ、デンマークが農業先進国であったことからこの名がつけられました。

10 下の（ ）にあてはまる言葉や年号を書きなさい。

- ・ 1889年（明治22年）東海道本線全線が（東京－神戸間）が開通しました。
- ・ （ ）年（明治24年）明治新田に安城駅が開業しました。開設当時の駅周辺は、農家が6軒ほどしかありませんでしたが、駅前に人力車の会社ができ、旅館・長屋が建てられ、町がつくられてきました。
- ・ 「ごんぎつね」の作者として知られる（ ）は、1938年（昭和13年）に安城高等女学校（現在の ）高校）の教員となり、教職につきながら創作活動に取り組みました。
- ・ 1945年（昭和20年）1月、（ ）地震がありました。当時は太平洋戦争末期だったこともあって、地震の被害は報告されず、物資不足も手伝って、復旧は進みませんでした。
- ・ （ ）年（昭和27年）、安城町から安城市となりました
- ・ 1988年（昭和63年）東海道新幹線（ ）駅が開業しました。